

2018年2月 VIC 講習会：音声コードの読み取りと活用法

2018.02.04

広島市視覚障害者情報支援センター

1 本講習の趣旨

従来から、SPコードの付いた文書や冊子などは、据え置き式読み取り機で文書を読み上げることができたが、最近になって、SPコードを拡張した音声コードとそれを読み取り、読み上げる Uni-Voice Blind アプリが開発され、無料で配布されている。そのアプリは、視覚障がい者にとって必須生活ツールである iPhone で利用できることから、音声コードが非常に身近なものになっている。

本講習では、Uni-Voice Blind アプリを用いて音声コードを読み取る練習を行う。音声コードの読み取りは、最初は晴眼者のサポートが必要であるが、練習することで単独で読み取りができるようになる。

2 音声コードと Uni-Voice

- ・特定非営利活動法人 日本視覚障がい情報普及支援協会（平成 24 年法人化）が音声コードの普及の推進役となり、国、都道府県、市町村に音声コードの利用促進を働きかけている。 <http://www.javis.jp/index.php>
- ・視覚障がい者用音声コード読み上げアプリ (Uni-Voice Blind) を開発し、無料で配布している。これまでは、SPコードを読み取る場合据え置きの読み取り装置が必要であったが、iPhone で音声コードを読み上げることができるようになった。
 - 従来から使用されていた SP コードも含めて読み取ることができ、また、このアプリはオフラインで使えることも特徴である。
 - 外国人向けに、多言語コードとしても活用 (Uni-Voice) ができる。
- ・障害者差別解消法 (2016 年施行)
差別解消法において義務化または努力義務化された合理的配慮の手段として、Uni-Voice Blind の利用が期待されている。
<合理的配慮の例>
 - 役所で、この文書読めるようにしてください。対応は義務。
 - 食堂で、メニューを読んでください。対応は努力義務。

3 準備

① iOS のバージョンとアプリのダウンロード

iOS11 であることを確認する。古いバージョンの場合は iOS11 をインストールする。
Uni-Voice Blind アプリをダウンロードし、インストールする。



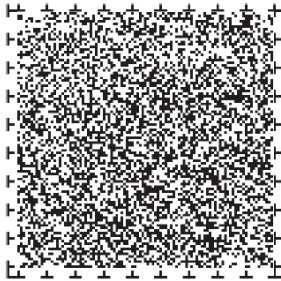
Uni-Voice Blind



Uni-Voice

②資料の準備と音声コードの位置

- ・音声コードが印刷されたパンフまたはチラシを準備する。
- ・音声コードの位置を確認する。
- ・切り込みのルール
 - >切り欠きが右下にある場合は、そのページの右下の角に音声コードがある。
 - >右下に2箇所切り欠きがある場合は、裏面にも音声コードがある。
 - >左下にも切り欠きがある場合もある。



音声コードのサンプル

4 音声コードの読み取り練習

①立ち上げ

- ・VoiceOver を起動する。
- ・Uni-Voice Blind アプリを起動する。

②スキャン画面

- ・アプリを立ち上げると、ピーピーという音響と音声案内があり、スキャン画面であることがわかる。
- ・スキャン画面では、iPhone のカメラを用いて音声画面を読み取る。自動で音声コードを認識するので、ユーザがシャッターを切る必要がない。
- ・音響の種類
 - >コードを読み取り中の音響は、「ピーピー」
 - >明るさ不足の場合の音響は、「プープー」

>なお、音響音によって音声コードがあるかないか、または、近いかどうかの判別はできないのが現状である。

- ・音声コードの読み取り

読み取り方法は、「引き上げ法」と「水平移動法」の2つがあるが、引き上げ法の方がうまくいくようである。シャッターの音がすれば、読み取り成功である。その後、読み上げ画面に自動的に移動する。

>引き上げ法：切り欠けの上に、iPhone のカメラの部分を置き、ゆっくり引き上げる。

>水平移動法：切り欠けから 5～10cm 上に離し、ゆっくりと移動する。補助台がある場合はこの方法が優れている。

③読み上げ画面

- ・画面の下から4分の3がテキストエリアであり、音声コードの内容がテキストで記載されている。
- ・画面中央をタップして読み上げる。または、上部メニューをスワイプで送っていき、テキスト画面に移動する。
- ・画面上部のメニューには、テキストをコピーするボタンや、テキストをメールに添付するボタンがある。
- ・なお、iPhone のアプリで見られる便利な「共有ボタン」がないのは、残念である。

④メニュー画面

- ・呼び出し一覧画面

これまでにスキャンした音声コードが一覧表になっており、過去に読み取った内容を再度読み上げることができる。

- ・設定画面

>連続スキャン設定： 複数の音声コードを連続して読み込み、その後読み上げる場合には、このボタンをオンにする。

>カメラ照度設定： カメラにライトがついている場合は、このボタンをオンにする。

>手話設定： 音声コードに手話情報が記録されている場合は、このボタンをオンにする。

>音響なし設定： スキャン画面の音響を止める場合には、このボタンをオンにする。

- ・そのほか、言語設定画面、使い方テキスト画面、使い方写真付画面、プライバシーポリシーリンク、利用規約リンク、ホームページリンクなどのメニュー項目がある。

5 利用できる文書

(1) 個人の情報

現状では、次の文書に音声コードが導入されている。

- ・マイナンバー通知
- ・日本年金機構 ねんきん便

個人情報という観点からは、今後、次の文書に音声コードの導入が期待される。

- ・生活インフラ料金（水道、ガス、電気等々）
水道は長幌上水道で H29.08 から実施されている。
- ・銀行の通帳
- ・税金

(2) 生活情報

各役場で音声コードの取り扱いが大きく異なる。

- ・東京都福祉保健局「マル障受給者証のてびき」に音声コードを導入。
- ・鶴ヶ島市で封筒に音声コードを導入。
- ・千葉県 「情報保障のためのガイドライン」に音声コードの導入について言及。
- ・広島市
 - 「障害者差別解消職員対応要領」に音声コードについて説明がされている。
 - 障害福祉課が全庁的に音声コードを印字するよう依頼をしている。
 - 音声コード貼り付け文書を希望者する人は、障害福祉課で登録をする。
 - 従来から SP コードのシステムで印刷を行っている。
新システムへの移行については、未定である。

(3) 商品への音声コードの導入

薬等の商品に音声コードを導入することによって、服用方法を詳細に知ることができる。しかし、商品への音声コードの導入は進んでいない。現在、商品にはバーコード(Jan コード)が貼り付けてあり、これを利用して、商品の取り扱いなどの情報を知ることができる。

(4) 音声コードの作成

音声コードを作成する Word アプリは、個人使用の場合、無料で利用できる。

6 今後の課題

- ・日本視覚障がい情報普及支援協会が音声コードの導入について各方面、特に、市町村を対象に働きかけを行っているものの、音声コードが付いている文書はごく一部であり、今後の拡大が望まれる。

- Uni-Voice Blind アプリを利用して SP コードも読み取ることができたが、一部の冊子で読み取りができなかった。なお、その冊子の発行元に問い合わせたところ、この冊子は印刷業者が SP コードで作成したもので、据え置き型 SP コード読み取り装置でも読み取りができなかったとのことであった。これは、Uni-Voice アプリに問題があるのではなく、音声コードの作成ミスなど冊子作成側に問題があったものと推測される。
- 講習会では、引き上げ法による読み取りを行なったが、最初は健常者のサポートがないとうまくいかなかった。切り欠けを頼りにして、iPhone で音声コードの探査を行う訳であるが、画面に音声コードが入っているか、または、入っていないかなどを音響で知らせてくれると、視覚障がい者が一人でも読み取りの練習ができると思われる。Uni-Voice の音声コードの存在に対する音響機能の付与など改善が望まれる。